

天性の歌唱力 “えん歌の申し子”

島津亜矢



天才少女として注目を浴び、15歳で歌手デビュー。抜群の歌唱力でキャリアを重ねてきた島津亜矢が所沢ミュージズに初登場する。NHK紅白歌合戦には3年連続の出場、演歌という枠を越えて目覚ましい活動を展開する島津亜矢に、コンサートへの意気込みや歌に対する姿勢を聞いた。



デビュー曲「袴をはいた渡り鳥」(1986年)



NHK紅白歌合戦初出場曲「感謝状〜母へのメッセージ〜」(2001年)



去年のNHK紅白歌合戦出場曲「The Rose」収録のカバーアルバム『Singer3』



保育園にて (3歳・中央が島津さん)



田原坂100年祭にて「岸壁の母」を歌唱 (5歳)



デビュー曲「袴をはいた渡り鳥」キャンペーン風景 (15歳)

幼少時代

「生まれてくる子は、演歌を歌える子にしたい」と考えていた母は、私がお腹のなかにいるうちから、胎教で演歌を聴かせていたみたいです。その成果なのか、気づいたときには、演歌は自然と私のなかを流れているものになっていました。保育園でチューリップの合唱をしているとき、「亜矢ちゃんだけコブシがまわっている」と、親が呼び出されたこともありました。

デビュー秘話

13歳の時に出場した「長崎歌謡祭」というとても大きな大会でスカウトをいただいたことがデビューのきっかけとなりました。

デビューのお話をいただいた当初、両親は大反対でした。まだ、親許で学ぶことがたくさんあるというのが理由だったのですが、「このチャンスを逃したら次はない」と感じたため必死に頼み込み、半ば強引に押し切りました。大見得を切るかたちで熊本から上京をしましたが、不思議と不安な気持ちはなく、希望のほうが大きかったように思います。上京する飛行機のなかで読んだ、亡き祖父の手紙にあった「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉は、いまでも自分の座右の銘です。

歌手生活32年

月並みですが、本当にあつという間でした。走り抜けてきたような印象はありません。お恥ずかしい話なのですが、ここ4〜5年になって、ようやく静かな気持ちで音楽と向き合えるようになった気がします。「歌う」ということに対して、考えるようになりました。

3年連続 紅白歌合戦出場

憧れ続けてきた紅白の舞台に立たせていただけると連絡をいただいたときは、信じられない気持ちと、込み上げてくる感動で胸がいっぱいでした。本番当日、あまりの緊張から真っ青になり動けなくなった私を心配して、腹ばいで近くまで来て手を握ってくださいましたスタッフさんがいたことを、いまでも思い出します。

尊敬する大先輩・北島三郎

尊敬する先輩はたくさんいらっしゃるのですが、なかでも「北島三郎」さんが大好きです。歌手としてはもちろん、人間としてもとても大きな方で、少しでも近づくといいなという目標でもあります。

ジャンルにとられない圧巻のステージ

所沢ミュージズ公演では、演歌はもちろん、歌謡曲から洋楽まで、いまの私をご覧いただけるように精一杯こだわっていただきます。台詞入りの長編ものやカバー曲など、きっかけはいつも「母」です。歌手としての幅を広げるためとしては、無理難題を持っています。ですが、結果としてその無理が実を結んだのだと、いまでは感謝をしています。

昨今は、演歌以外の歌に挑戦させていただく機会も増えたのですが、毎回毎回、緊張の連続です。皆様お誘いあわせのうえ、足を運んでいただけたら嬉しいです。よろしくお願ひします。

島津亜矢コンサート2018

6月9日(土)
午前の部 11:00 開場 11:30 開演
午後の部 15:00 開場 15:30 開演
アークホール
S席 ¥6,500 A席 ¥5,000
※未就学児の入場はご遠慮ください。

好評発売中